

平成 28 年 9 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社ながの東急百貨店
 代表者名 取締役社長 楠野 創
 (コード：9829 東証 JASDAQ)
 問合せ先 常務取締役
 業務本部長 田力 祐志
 (TEL 026-226-8181)

特別損失の計上及び第 2 四半期累計期間の業績予想値と実績値との差異 並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 1 月期第 2 四半期(平成 28 年 2 月 1 日～平成 28 年 7 月 31 日)において、下記のとおり特別損失の計上を行うとともに、平成 28 年 3 月 16 日に公表いたしました平成 29 年 1 月期第 2 四半期累計期間の業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。また、第 2 四半期累計期間の実績等を踏まえ、通期業績予想(連結・個別)を修正いたします。

記

1. 特別損失の計上について

平成 28 年 3 月に策定した「収支改善計画」の施策である構造改革の一環として、組織体制、人員体制並びに従業員の役割・賃金・働き方を抜本的に見直すため、人事制度を変更し、また、この機会に、転職、独立自営等を希望する従業員に対して、従来から制度化している「転進援助制度」を当事業年度に限り拡大適用いたしました。これにより発生した人事制度コンサルタント費用及び 7 月末日付退職者 20 名に対する転進援助金等 127 百万円を、事業構造改善費用として特別損失に計上いたしました。

2. 連結業績予想値の修正 について

(1) 平成 29 年 1 月期第 2 四半期(累計)連結業績予想値と実績値との差異(平成 28 年 2 月 1 日～平成 28 年 7 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,136	△73	△103	△235	△24.59
実績値(B)	9,757	△27	△42	△238	△24.96
増減額(B-A)	△379	46	61	△3	
増減率(%)	△3.7	—	—	—	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 1 月期第 2 四半期)	10,158	△17	△38	△82	△8.58

(2) 平成 29 年 1 月期通期連結業績予想値の修正 (平成 28 年 2 月 1 日～平成 29 年 1 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	20,830	△130	△190	△505	△52.82
今回修正予想(B)	20,143	△103	△134	△600	△62.71
増減額(B-A)	△687	27	56	△95	
増減率(%)	△3.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 1 月期)	21,066	86	51	△4,230	△441.91

3. 個別業績予想値の修正について

(1) 平成 29 年 1 月期第 2 四半期(累計)個別業績予想値と実績値との差異 (平成 28 年 2 月 1 日～平成 28 年 7 月 31 日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,716	△83	△218	△22.87
実績値(B)	8,366	△43	△256	△26.80
増減額(B-A)	△350	40	△38	
増減率(%)	△4.0	—	—	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 1 月期第 2 四半期)	8,716	△53	△76	△7.96

(2) 平成 29 年 1 月期通期個別業績予想値の修正 (平成 28 年 2 月 1 日～平成 29 年 1 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	17,897	△183	△474	△49.60
今回修正予想(B)	17,305	△131	△576	△60.25
増減額(B-A)	△592	52	△102	
増減率(%)	△3.3	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 1 月期)	18,125	32	△4,223	△441.21

4. 修正の理由 (連結・個別)

当第 2 四半期累計期間の売上高につきましては、衣料品の不振などにより、前回発表予想を下回る結果となりましたが、利益面におきましては、販売費及び一般管理費の削減に努め、また、店舗の改装や設備の改修費用等の計画の見直しを行った結果、営業損失及び経常損失は、前回発表時の損失予想を改善する結果となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益(又は四半期純利益)につきましては、特別損失の計上額が計画値を上回ったことにより前回予想を下回る結果となりました。

通期予想につきましては、当第 2 四半期連結累計期間の業績及び今後の動向を踏まえ、営業損失及び経常損失は前回予想から改善する見通しではありますが、大型テナント誘致などの店舗改装に伴う特別損失が増加する見通しとなったことから、親会社株主に帰属する当期純利益(又は当期純利益)は前回予想を下回る見通しであります。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。